

## 令和4年度第1回三木市創生計画策定検証委員会の概要

日 時：令和4年8月30日（火）

午前10時～正午

会 場：三木市役所 4階

特別会議室

第2期三木市創生計画 人口ビジョン・総合戦略（以下、「第2期創生計画」という。）について、令和4年度第1回三木市創生計画策定検証委員会（以下、「創生委員会」という。）を開催し、委員から意見をいただいた。創生委員会における主な内容は、次のとおり。

### 説明事項

- ・令和4年度第2期三木市創生計画 ～KPI集～

### 概要

KPI検証資料を基に、令和3年度の各KPIの実績と、実績に係る検証及び今後の方針について報告し、委員に意見を求めた。

### 主な意見

- ・今まで三木市と様々な取組を進めているネスタリゾート神戸が、今後も市にとって非常に重要な施設であると感じる。最近では、経営権の譲渡などもあったが、今後さらにより良い施設にするため、良い関係性を築いていき、ネスタリゾート神戸と県及び市が連携して、集客施設としての魅力を高めるようなかたちにしてほしい。
- ・これから高齢者の人口が増加する中で、バスの利便性を上げていくことが非常に重要であると思う。そこで利便性を上げる取組をDXという観点も踏まえて工夫していく必要がある。
- ・高齢者が免許を返納してから行動パターンが狭くなり、行きたいところになかなか行けないということをよく耳にする。デマンド型交通など様々な取組を実施していることは、非常に良いことである。しかし、今まで自家用車で買い物をしていた人が、バスを利用すると荷物などを運ぶ際は不便と感ずることや、タクシーを利用すると料金も多くかかるといった課題もある。そこで、将来的な話となるが、安全性を確保しながら、自動運転などでお買い物ができるような仕組みやネットワークの構築を民間事業者と連携しながら進

- めてほしい。
- ・買い物でバスを利用したくても、停留所まで行くことが困難な方が増えている。そこで、自宅までお迎えし、お店で1時間程度買い物をしてから、自宅にお送りするというサービスが非常に好評である。特に自分の目で商品を選びたいという高齢者からのニーズがあり、今後は、さらに行政等と連携しながらサービスを広げていきたいと考えている。
  - ・子育てに一番不安等を抱えている出産から1年未満のお母さんに対して、紙おむつや離乳食等をお届けするサービスがあり、その中で専門の職員がお届けすることで、日頃の困りごとなどをヒアリングして、何かのお手伝いをすることや、行政につなげるというサービスが、非常に多くのお母さん方から好評をいただいている。コロナ禍において、行政に出向いてサービスを受けるということはハードルが高いと感じているが、気軽に話せる人が来てくれると話しやすいと感じることもあり、非常に喜ばれている。今後、そのようなサービスが行政とも連携しながらできたら良いと感じている。
  - ・兵庫県では、2020年～2024年に地域創生戦略を策定しており、その中間年ということで現在見直し等を行っているところである。そこで、新たな視点としてアフターコロナ、SDGs、大阪・関西万博に係る取組等について、計画に盛り込んでいこうと考えている。その観点からみると、三木市のKPI集には、SDGsという言葉が少ないと感じる。各KPIにおいて、SDGsの視点も明示すれば、さらに良いものになると感じる。
  - ・兵庫県は、大阪・関西万博に向けてフィールドパビリオンを進めているところである。今後も、県と市が連携して観光客を取り込んでいけるよう進めていきたい。
  - ・図書館について、高齢化が進む中で、これまで以上に図書館までのアクセス方法や、読書以外の利用方法を検討することで、さらに活性化していけるよう取り組んでほしい。
  - ・農業関係の後継者問題が今後も深刻になることが予想される。不動産業においても、農地付きの不動産が多く、農地の承継者がいないことが大きな課題となっている。行政にも方針及び対応策を検討してほしい。
  - ・コロナ禍以降、移住を検討される家族が増えてきている。現状は対象となっていない40代以降の世帯等も移住支援の対象とすることで、さらに三木市への移住者増加につながると感じる。
  - ・KPI-17「事業継承計画の策定件数」と、KPI-53「マイナンバーカード交付率」については、目標を達成しているが、さらに上回っていけるよう取り組んでほしい。
  - ・地方創生において、一番重要なポイントは、定住人口を増やすことである。そ

のためには、交流人口や関係人口を増やしていくことが必要である。そこで、三木市のことを知ってもらうための情報発信、官民連携及び庁内連携によって人をどう巻き込んでいくかということが重要である。特に庁内連携については、横断的な視点を構築できているかということが大きなポイントであるものの、今回の資料を見る限り、横断的な視点というよりは、部署ごとの取組となっており、横のつながりをあまり感じなかった。今後は、横断的な視点で物事を考えていくということが重要であると感じた。

- ・資料から、新しく取り組んでいる事業と固定化している事業があることが分かるが、固定化している事業が多くなってくると、職員がそれに忙殺されることが多くなり、新しい視点で物事を考えることや、市民から声を聞いてニーズを捉えるということが少なくなってしまう。そうならないよう、スリム化できるところはスリム化して、時代に応じて、新しいことを考えるような隙間を作ることも重要である。また、そういった意味では、強制的に人の声を聞くということも大事であり、様々な分野の中で、職員が出てきて意見を聞くような機会を増やしていき、その意見を取組や計画に反映させるという仕組みがあれば、さらに今の取組を加速させることができるのではないかと感じた。
- ・インバウンドについては、金物、ゴルフ、山田錦などの他の地域にない魅力を磨いていくことで自然と増えていくと感じる。また、繰り返し来ってもらうということにもつながると感じる。地域の魅力をどう生かしていくのか、引き続き、検討を進めてほしい。
- ・図書館が本を借りたり読んだりするだけでなく、交流や情報発信の場として、非常に大きな拠点になっている。例えば、子育て支援や高齢者にとっての学び直しの場になっていると聞いている。このように、図書館がこれまで違うところと連携しながら、新たな拠点にしていくということも非常に重要である。
- ・K P I -20「市内商店街の店舗数」と、K P I -64「合計特殊出生率の向上」について、増加させていく目標となっているが、ハードルが高く、現実的ではないため、目標について再度検討する必要があると感じた。